

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2014年2月)

発表日2014年4月8日(火)

～経常収支は赤字幅縮小。1-3月期は赤字の見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
				貿易収支	サービス収支		
					貿易収支	サービス収支	
2013	1月	▲ 3,484	5,529	▲ 7,547	▲ 4,234	▲ 3,313	12,847
	2月	6,497	1,579	▲ 11,185	▲ 8,240	▲ 2,945	13,537
	3月	12,831	2,032	▲ 9,865	▲ 7,007	▲ 2,858	12,765
	4月	7,844	9,332	▲ 7,804	▲ 5,344	▲ 2,460	18,083
	5月	5,666	4,894	▲ 7,006	▲ 5,294	▲ 1,712	13,024
	6月	3,777	4,294	▲ 8,801	▲ 6,008	▲ 2,793	13,978
	7月	6,004	3,610	▲ 9,747	▲ 7,136	▲ 2,611	14,211
	8月	1,571	1,711	▲ 9,535	▲ 6,398	▲ 3,137	12,138
	9月	5,948	401	▲ 12,573	▲ 9,589	▲ 2,984	13,828
	10月	▲ 1,279	897	▲ 11,961	▲ 8,621	▲ 3,340	13,880
	11月	▲ 5,928	▲ 1,063	▲ 13,266	▲ 10,060	▲ 3,206	13,608
	12月	▲ 6,386	686	▲ 12,879	▲ 9,076	▲ 3,803	14,410
2014	1月	▲ 15,890	▲ 5,883	▲ 18,223	▲ 13,786	▲ 4,437	13,670
	2月	6,127	▲ 414	▲ 11,896	▲ 8,530	▲ 3,367	13,442

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支（原数値）は5ヶ月ぶりの黒字

2014年2月の経常収支（原数値）は6,127億円の黒字（コンセンサス：6,260億円の黒字、レンジ：1,975～9,502億円）と、ほぼコンセンサス通りの結果となった。原数値では5ヶ月ぶりの黒字である。貿易・サービス収支の赤字幅縮小が、経常収支の黒字転化に繋がった。

季節調整値では、414億円の赤字（1月：5,883億円の赤字）と、黒字転化とはならなかったが前月から大きく赤字幅が縮小した。ただし、春節の影響を除くため1、2月の平均をとると3,149億円の赤字であり、明確な改善基調に転じたわけではない。2月の赤字幅縮小は、貿易収支（季節調整値）が8,530億円の赤字（1月：13,786億円の赤字）と赤字幅を縮小したことが背景にある。輸出金額（2月：前月比▲1.1%）、輸入金額（2月：同▲7.8%）ともに前月から減少したものの、輸入の減少幅が大きかったことで貿易収支は改善した。もっとも、1月の貿易収支が春節によって下押しされていたことの反動の面もあり、均してみれば依然高水準の貿易赤字が継続している。

○第一次所得収支は黒字縮小、サービス収支は赤字拡大

貿易外収支（季節調整値）の動きをみると、第一次所得収支は13,442億円の黒字（1月：13,670億円の黒字）と黒字が小幅縮小した。内訳をみると、証券投資収益の黒字が増加（1月：8,892億円黒字→2月：9,598億円黒字）したものの、直接投資収益の黒字が減少（1月：4,264億円黒字→2月：3,400億円黒字）したことで、第一次所得収支全体では小幅の黒字縮小となった。直接投資収益の黒字縮小額は比較的大きいものであるが、単月では振れが大きい統計であり、先行きは海外経済の回復が見込まれることや対外直接投資の実行超

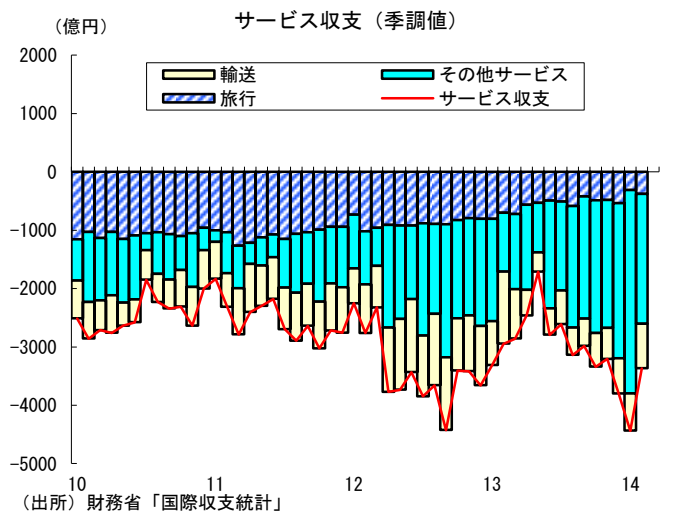
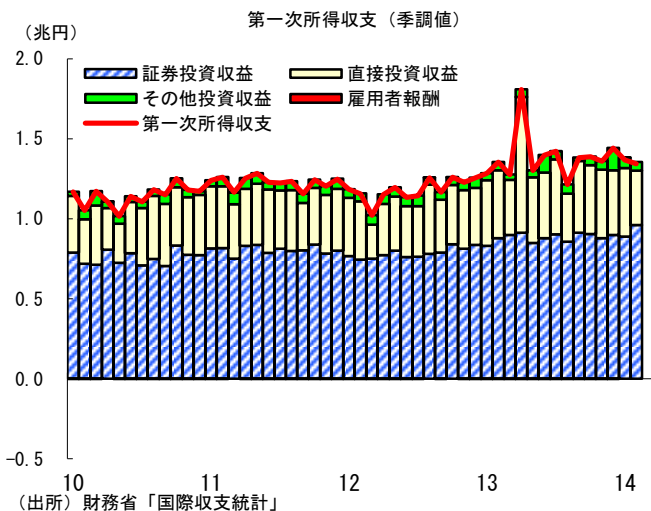
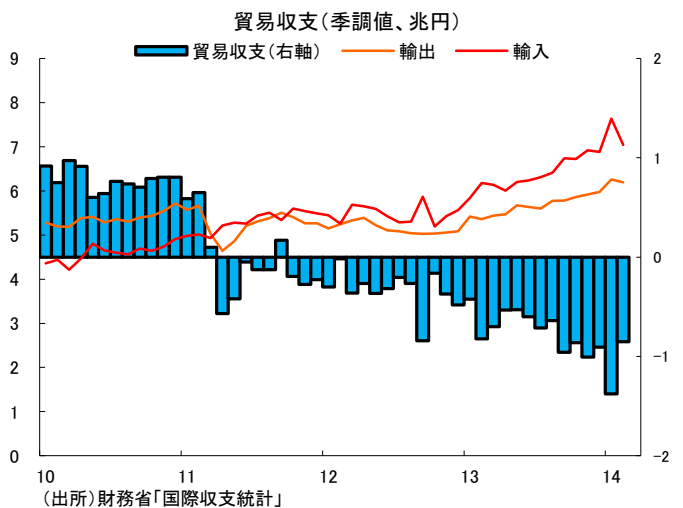
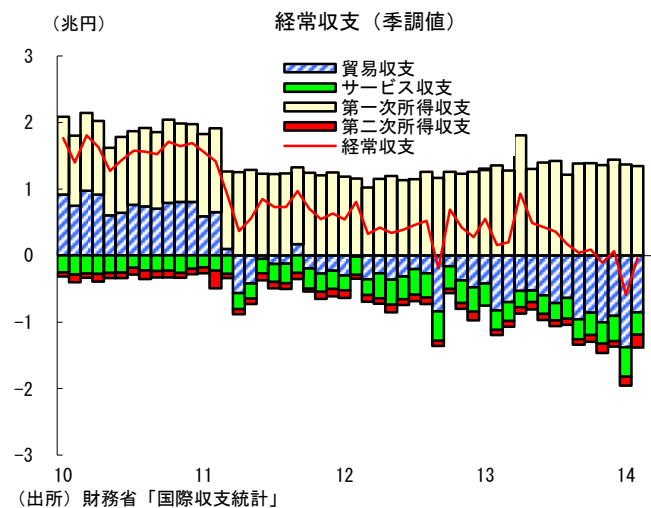
が続いていることなどを背景に黒字拡大傾向での推移が見込まれる。

サービス収支は、3,367億円の赤字（1月：4,437億円赤字）と改善した。今月の改善は、その他サービス収支（1月：3,486億円赤字→2月：2,226億円赤字）の赤字幅縮小が主因である。旅行収支は赤字幅縮小傾向、輸送収支が赤字幅拡大傾向での推移が続いている。

○14年1-3月期経常収支は赤字の可能性が高いが、13年度の経常収支は黒字の見込み

このように2月の経常収支（季節調整値）は赤字幅縮小となったが、前月大幅悪化した貿易収支の改善が背景にあり明確な改善基調に転じたわけではない。本日公表された貿易統計3月上中旬分速報を参考にすると、輸出は緩やかな増加基調、輸入は依然高水準で推移という構図に変化はないとみられ、現段階では貿易収支（季節調整値）は3月も高水準の赤字になると予想している。こうした状況を踏まえると、14年1-3月期の経常収支（季節調整値）は赤字となる可能性が高い。もっとも、13年度の経常収支は黒字となる見込みだ。

14年度4月以降は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動によって輸入の増勢が弱まることや海外経済の持ち直しを背景とした輸出の増加が見込まれる。こうした要因によって、貿易収支は赤字縮小傾向での推移となろう。また、第一次所得収支は前述のように豊富な対外純資産や海外経済の持ち直しなどを背景に、緩やかな増加基調での推移が見込まれる。総じてみれば、経常収支は14年度入り後、黒字基調に戻っていくものとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。